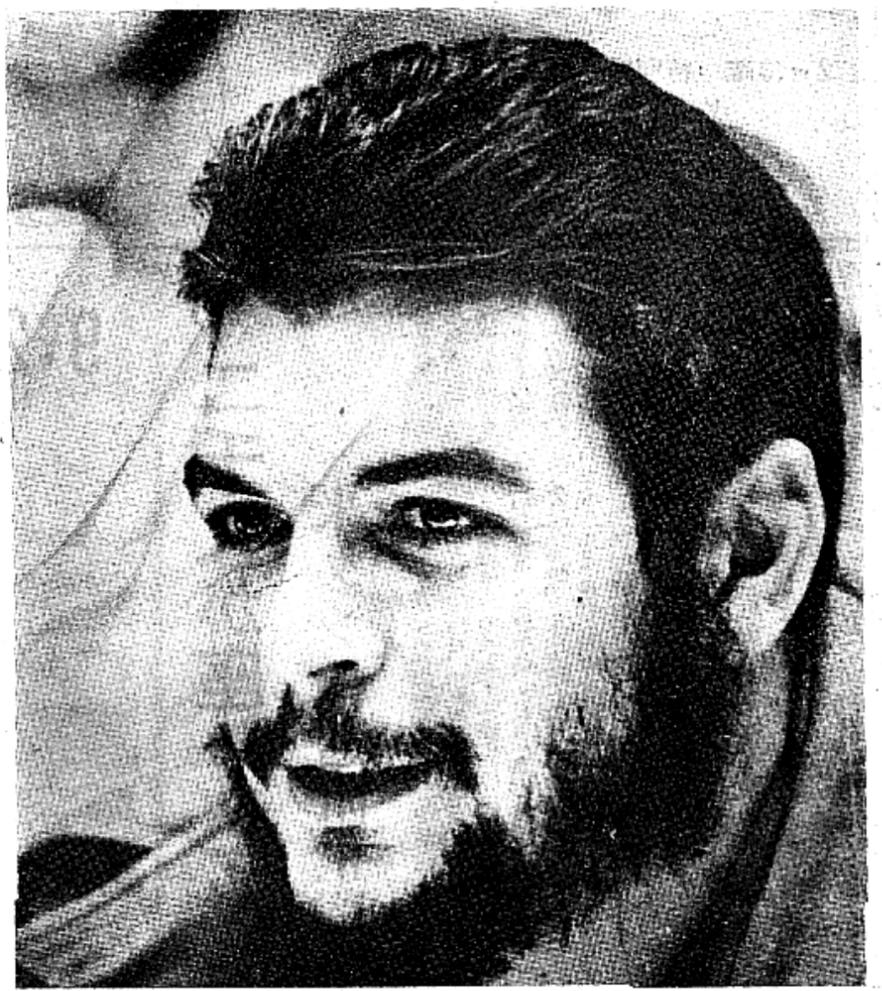


都市のゲリラ戦

ガーディアン紙 7月20日号



軍隊の支援組織網は 基本的に秘密活動

以下はエルネスト・チェ・ゲバラのポリア手帳のなかにあった二つの未発表文書のなかのひとつで、本紙の記者ライオネル・マーティンがハバナから打電してきたものである。ゲリラ部隊をささえるため都市の地下運動を組織するにはどうすべきか、ゲバラはそれを詳細に指示している。

われわれの望む支援組織網は下記の原則に従って組織されなければならない。その諸活動は基本的には秘密活動となるであろう。ただし個人や団体と接触する必要上、一定の幹部がどうしても表面にでなければならぬ。このような種の諸活動と交錯するであろう。このためには、非常にきびしい相互隠蔽が必要であり、活動のおこなわれる諸戦線のひとつひとつが、分離されねばならない。幹部たちは軍の司令部が定め、指導部の中枢を通じて示される一般的行動原則には厳密にしたがわなければならない。しかしこの原則を実行に移す方法については、完全に自主性に委ねられる。

秘密幹部は、割り当てられた困難な仕事を遂行して生き残るため、規律、秘密厳守、偽装、自制心、冷静な頭脳等々の性質を高度に具えるべきである。予備的な、身振りの悪い、目立たぬような手段をとらねばならない。半公然活動に従事するすべての同志のうえに、厳格な指令をあたえ、その活動を監督する。

個人、団体に支援される農民組織を作ることによって、民族解放軍(ELN)の全作戦領域をつつむいくつもの小支持組織網をつくりあげてあげよう。

輸送管理者は物資が集積される中心地から、それらが下部の組織網によって受領される地点に、また場合によっては直接解放地区に、送付されるよう配慮する責任がある。これらの同志は、強固な隠れ蓑の下で働かねばならない。たとえ輸送の規模や目的地点が公然となる時に、当局の疑いをそらすような、小企業を組織するのはその一例である。

情報管理者は、信頼できる連絡員を通じて受け取る、一切の軍事及び政治情報を集中する。(連絡員は、軍あるいは政府内部の同調者と接触して、半公然活動に従事するので、その立場は特に危険である)集められた資料はすべてが解放軍の情報担当者におくられる。

情報管理者は組織の最高責任者と、解放軍情報部の双方に対して、責任をおう。財政管理者は組織の経理を管理する。この同志は自己の職分の重大さを明確に自覚していなければならない。というのは、秘密幹部は幾多の危険とおもひもかけぬ死にさらされているといえ、ただ都市にすむというだけの理由で、ゲリラの肉体的困苦をなめるわけではないし、自分の手にする物資や金銭を無造作に、あつかうことになれてしまうおそれがあるほか、もろもろの誘惑とたえず接触することによって、その革命的威信を傷つける危険性があるからである。

財政管理者は、支出を最後の1ペソにいたるまで分析し、積明できない金は1セントといえども使われていないことを、確認しなければならぬ。そのほか、彼は寄付されたり、税として徴収されたりした金銭を管理し、その徴収を組織することを担当するであろう。

財政管理者は、組織の最高責任者の配下にあるとともに、支出に関する事項について、彼を監査する者の命令にしたがう。すべて以上のことからあきらかなように、財政管理者は、思想的にきわめて強固でなければならない。

都市行動担当者の任務には、都市の武装行動に関する一切の任務がふくまれる。たとえば、密告者、悪名高い拷問者、政府要人などの抹消とか、身代金目あての誘拐とか、経済活動の中枢部におけるサポーターシエとかである。こうした活動は、すべて組織の最高責任者によって命令されるであろう。ただし最高責任者はきわめて緊急の場合を除いては、いち個人の発意にもとづいて行動することはできない。

司調者の協力と各組織の連係が必要

組織の連係が必要

次にはこれらの都市から町にと、分岐的組織がつくられ、さらにそこから村落に、そして農家のおよぼされる。この農民こそは、わが軍との接触を確立しわれわれがそれを通じて物資、金銭、情報入手するための現実の接触点となるであろう。

わが軍の影響範囲がひろがるにつれて、接触点は都市に接近し、それに応じてわが軍の直接支配地域も拡大するであろう。この過程は、その間にいくつもの起伏をもち、その発展も全解放の発展とおなじ数年間の長期にわたるものであるが、その間組織の首脳部は首都に居住し、その組織を首都から、当面われわれにとってもっとも重要な四都市、コチャパンバ、サンタ・クルス、スクレ、カミリー(これらはわれわれの作戦地帯の全域をおおう長方形を形成する)にひろげるであろう。これら四都市の担当者はできるかぎり精選された幹部でなければならぬ。彼らの担当する組織は首都のそれとおなじものであるが、しかしそれよりも、もっと簡単なものとなるであろう。補給と輸送、財政と同調者担当は、それぞれ一人の長のもとに、また都市行動は別の長のもとにおかれるであろう。独立の情報部はつくる必要がない。地方の最高責任者がこの活動を担当することができるところである。都市行動は、解放軍がそれらの都市にちかづくにつれて、ますます密接に軍の作戦行動に統合され、ついには軍の指揮下にはいる近郊ゲリラ隊へと変貌するであろう。

組織網は、上述のような方法で、これらの諸都市から拡がって行くであろう。目下われわれの作戦地域からとおくはなれている諸都市においても、組織網の発展はゆるがせにされてはならない。そこでも住民の支持は必要であるし、将来の作戦にそなえて準備がなされねばならぬ。いからである。オルロとポトシはこの範疇に属し、最も重要である。厨境の諸地点には、特別の注意を払うことが必要である。たとえばアルゼンチンからの通信、ならびに同国からの補給をはかるためのピリヤゾンとタリーハ。ブラジルに対するサンタ・クルス、ペルー国境のウアキまたはその他の地点、チリー国境上のどこかある地点など。

補給網には経験ある活動家を

補給網を組織するにあたって、経験を持つしつかりした活動家に頼ることができれば、好都合であろう。たとえばある商店主が補給を組織したり、組織網のこの部分に参加したりするか、ある運送会社の経営者が、輸送の仕事組織したり、といったことである。

それができない場合は、そうした機関を、徐々に、辛抱強く組織しなければならぬ。たとえ、十分な基礎がないと、前進した地点を作

次のような工場や商社が組織されねばならぬ。食料品店(ラパス、コチャパンバ、サンタ・クルス、カミリー) 運送会社(ラパス、サンタ・クルス、サンタ・クルス、カミリー、ラパス、スクレ、スクレ、カミリー) 靴店(ラパス、サンタ・クルス、カミリー、コチャパンバ) 衣料品店(右に同じ) ガレージ(ラパス、サンタ・クルス) 農場(チャパレ、カラナビ)

これらの二つは、その活動に注意をひかないようにして、補給品(武器を含む)を集積し輸送することができるであろう。靴店と衣料品店は、注意をひかずに、材料をかいつけ、われわれに衣服をつくるという両面の任務をはたすことができる。ガレージは、武器について同様なことをするであろうし、農場はわれわれがひとつの地域から他の地域へ移動する場合、われわれの補給基地となるであろう。またその農業労働者たちは、農民たちの間で宣伝活動をも開始するであろう。

都市のゲリラ軍隊支援組織

